



被災した家族へ支援物資の食糧を届ける学校スタッフ（写真上中央）と、支援物資を受け取った家族（写真右）



（下写真）2010年の洪水の時の様子
学校の子どもたちによる支援グループが
作られ、支援活動を行った。
リーダーのサリーム君（左白い服）が被災し
た子どもたちから話を聴いているところ



「現段階での J F S A の方針」

アル・カイルアカデミーはスラムの子ども達への教育支援を行なう学校であり、緊急支援を専門とする団体ではありません。またJFSA自体も、パキスタン北部の大震災、その後の大洪水に際しては現地の人々と協力して被災地の支援を行なってきましたが、基本的には衣類などのリユース販売事業を通して現地の学校を継続的に支援することを目的としています。

JFSAは、今回のパキスタン大洪水の状況、またアル・カイルアカデミーによる被災地支援の内容を共有してもらい、JFSAとしての活動方針を理事会で話し合いました。その中で、まずは2010年に実施した大洪水の被災地支援活動へ寄せられたカンパ金の残金(※)を、今回の緊急的な支援活動の資金に充てることを、アル・カイルアカデミーと相談の上で決め、実行することとしました。

尚、今回の大洪水被災地の支援については、今後もJFSAとしてアル・カイルアカデミーから被災地の状況や支援活動の内容を共有してもらいながらその活動に協力します。

※カンパ金の残金

2010年の大洪水では、下記の【資料】「2010年大洪水被災地支援の方針」に沿い、農民の家の再建や、水害から守るための堤防の設置など様々な支援活動を行ないました。また農民たちと協力して行なう継続的な取り組みとして「家畜の委託飼育プロジェクト」を行なったのですが、個々の農民による事情の違いにより、当初の計画通りにプロジェクトを継続することが困難となりました。その後、農民とは家畜以外の作物による事業の可能性についても話し合いを重ねましたが、実行には至りませんでした。結果として現在も検討課題として、使わずに保管しているのがこのカンパ金の残金です。

【資料】2010年の大洪水被災地支援の方針は以下の通りです

- 被災した農民の力になりたいというアル・カイルアカデミーの子ども達の思いを柱にした支援を行なう。
具体的には、アル・カイルアカデミー内に、子ども達による「支援グループ」を結成してもらい、支援の企画・実施にあたっては、このグループとも協議する。
- 大土地所有制下の農村の仕組みや農民の暮らしをよく理解して、最も困難な暮らしをしてきた人々に支援が届くように留意する。地主に利する支援ではなく、農民どうしの相互扶助力を高める支援でありたい。この支援を進めるにあたっては、支援する側と地主や既得権を持つ者との急速な敵対関係を作らないよう配慮する。厳しい暮らしを強いられている農村の仕組みを変えていく主体は農民である。
- 支援カンパ金が使われて無くなってしまえば支援が終わるという支援金の使い道ではなく、農民の生活を改善していく資金を作り出す支援金の使い方を農民と共に考えていく。

アル・カイルアカデミー近況報告② ～技術訓練コース開設～

【HVACコース】

Heating Ventilation and air conditioning(暖房、換気、及び空調) 本校に、今年7月1日からマトリック(10年生が受ける全国共通試験)を終了した男子生徒を対象としたHVACコースが開設されました。

授業は9時～13時(25名)、13時～17時(25名)の2シフト制で生徒数は合計50名です。日曜日のみ休みで、殆どの生徒は別に仕事をしながら学んでいます。

このコースで主に学ぶエアコンや冷蔵庫に関する技術は、パキスタンでは非常にニーズが高く、生徒達の就職の際に役立つ事が期待できます。理論と実習にそれぞれ1名の担当教師がおり、政府のガイドラインに沿ったテキ

ストに加え、教師自らが作成したテキストも使用することで、より実践力が身に付く授業を目指しているそうです。6ヶ月のコースを修了すると、認定資格が取得できるそうです。

授業料は1ヶ月100ルピー(約60円)ですが、コース終了後には生徒に返金することになっています。これは最後まで学び続ける動機付けが目的なのだそうです。将来的にこの分野で独立を希望する生徒には、金銭的な支援も含めて行ないたいとムザヒル校長は話していました。また今後はソーラー発電について学ぶコースなど、社会のニーズに合うコースの開設も検討しているそうです。



【縫製・刺繍コース】

第8分校の側の職業訓練センターに開設されていた縫製コースですが、今年3月には第6分校で、そして6月には本校でも開設されました。対象となるのは地域に暮らす20歳～40歳位の女性達。コースはレベル1(基礎)が3ヶ月、レベル2(上級)が3ヶ月です。

・第8分校側の技術訓練センターに生徒数50名(1クラス)、縫製・刺繍コース
・第6分校に生徒数103名(1時間ごと)の入れ替え制、7クラス、縫製コース
・本校に生徒数141名(1時間ごと)の入れ替え制、8クラス、縫製コース



各レベルのコースを3ヶ月修了した生徒には、学校から修了証が渡されます(右写真)。

授業料は1ヶ月100ルピー(約60円)で、このお金を集めて優秀な成績の生徒にミシンをプレゼントする予定だそうです。

女性は身につけた技術により、自宅で内職として縫製の仕事をしたり、工場で働く際に役立ちます。このような女性のためのコースは、技術習得だけが目的ではなく、彼女達が家で抱える様々な悩みや問題も持ち寄り、相談し合えるという側面もあるそうです。

